- 1. 参加者 L 義間、SL 井谷、記録 本上
- 2. 山域/ルート 劒岳 源次郎尾根
- 3. 交通手段 自家用車
- 4. 行動記録

●2017年 8月 11日(金)曇り

15:00 頃 各地より出発 21:00 立山駅駐車場到着

●2017年 8月 12日(土)雨のち曇り

5:20 起床→6:20 発立山駅→7:30 着/8:00 室堂→9:10 雷鳥沢

天候悪く室堂には多くの人が集まる。 劒沢までは 4 時間程度なので室堂内のカフェでコーヒーを飲んで小雨になるのを待つ。

11:00 雨が一向に止む気配がないので天気予報を見ながら覚悟を決めて出発。その後は意外に天候回復し、予想では来るはずの雨雲も来なかった。ラッキー♪

15:00 劒沢着。トイレから遠くないところにテントを張った。暗くなってからはこの方が便利。若干傾斜がきつかったが SLの「そんなん別にええやん~」になんとなく納得。でも石がボコボコして寝にくかった。整地は大事ですね。

16:00 夕食(米4合炊飯、おかずは各自カレー、スープ、みそ汁など)

17:30 明日の行動予定を最終確認したのち就寝。。(--)zzz

●2017年 8月 13日(日)晴れ時々曇り

1:15 起床・朝食(ごはん残りでみそ汁のおじや)

2:35 劒沢テント場出発 しばらくは登山道を歩き途中で雪渓に降りる。雪渓は固く締まっておりアイゼン装着。劒沢から一時間程で平蔵谷との合流地点に到着。暗闇でも目印の大岩が見えた。本当に大きな岩だったのですぐ分かった。

3:40 源次郎尾根取り付き点 急登から始まる。前日の雨のためか手も靴も泥だらけになった。

早速核心部か!って感じのスリング設置場所に到着。足場が悪くぬるぬるしており滑りそうだった。スリングをつかみながら「よっこいしょ!」と助けてもらってよじ登った。その後も相変わらずの急登藪漕ぎがしばらく続く。暗闇の中コンパス見ながら、がしがしと岩をつかんでひたすら登った。ようやく明るくなってきた。

I 峰途中の脆い岩場で H が岩雪崩に遭い 2mほど滑落、I がロープで確保して少しルートを変えて登り直した。この後、H の足が攣りそうになってきたので、ロープの分担を Y に代わってもらった。

7:30 I 峰ピーク ここまでくると尾根伝いに山頂を目指すのみ。熊の岩、八ツ峰の景色 もきれいに見えてきた。八ツ峰に登るたくさんの人が見えた。さすが人気ルート。

ゆっくり登っていたら 3 人組の若い男性に追い越される。彼らはあっという間に行ってしまった。

しばらく行くと傾斜のある脆い岩場になる。昨日の雨も影響してか非常に足元が滑りやすかった。ここでYがこぶし大の石を落とす。幸い人には当たらなかったが急斜面の為、もっと注意をはらうべきだった。

8:25 Ⅲ峰懸垂下降支点 前方にガイドツアーらしき一組がいたので順番を待つ。早く出発したのが良かったのか渋滞にはならず、すんなりと下降できた。百丈岩での練習の成果あったかなぁ?

10:00 剱岳ピーク着 多くの人で賑わっていたが、ここで奇跡!!本峰南壁を登攀してきた大川さん、桐原さん、田村さんに会えた。姿を見て思わず大きな声で「桐原さーん!」と叫んでしまった。。山頂で会えたらいいなと思いながら登ってきたので、とても嬉しかった。ほとんど同時に着いたようだ。

頂上から源次郎尾根のⅡ峰を見ると懸垂下降地点ではもう行列になっていた。早めに出発 して良かったと思った。

10:30 剱岳ピーク発 下山は疲れてしまってヨタヨタと足元も覚束なかった。暑さと疲れでヘトヘトだった。昨年ほおばったブルーベリーは全く実っておらず寂しかった。

14:30 剱沢テント場着 着いてすぐ 1 時間くらい寝た。夕方になってやっと食欲が出てきた。

16:30 八ツ峰からメンバーが無事到着。これで全員揃った。夕食も楽しく食べた。剣岳には雲がかかったり時にサーっと晴れたりした。

●2017年 8月 14日(月)曇り

3:00 起床

5:00 下山開始

8:00 室堂着 バスにて美女平へ

9:30 ケーブルにて立山駅着 入浴後帰神

5. 山行中の問題点・事故に繋がる要因

a)予定のルート・日程で行動出来たか?

予定ルートをはずれた場合、あるいは日程が異なった場合はその理由

- ・8/10 SLより雨天の為、出発日延期の提案がメンバーにメール、電話連絡される
- ・8/10 メンバーは延期の旨、承諾。他班とも調整し出発日を8/11に変更することを決定
- 計画は予備日を使い 8/11-14 に実施することを決定
- ・8/12 は朝から雨の為、他班と相談して室堂からの出発を 3 時間半遅らせた。11:30 雨が小康状態になったので劒沢へ出発した。幸い雨は上がり濡れることはなかった。

b)事故に繋がりそうな要因(ヒヤリハット)が発生したか?

発生した場合、具体的に記す

- ・ I 峰から II 峰は崩れやすい岩場が続き、Y が誤って石を落としてしまった。下に人がいたら当たる危険があった。
- ・ I 峰登りの脆い岩場で H がつかんだ岩が崩れて滑った。I がロープで確保して乗り越えたが、岩稜では岩の状態を見ながら慎重に歩く。
- c)パーティーで、山行中の事故に繋がる要因につき、山行後検討したか?
- ・岩場の連続で登攀練習がもっと必要だと感じた。また、体力不足も実感した。疲れると気 の緩みから事故につながる危険もあるので、トレーニングをきっちりと行い準備する。

6. その他、ルートに関する情報・気がついた事など記す

- ・今年(2017年)は雪渓が多く残っており、取りつきまでのアイゼン歩行は問題なかった。
- ・稜線に出るまでは樹林帯をひたすらよじ登るので、夜間は特に道迷いに気を付ける。またザックやザックに外付けしているピッケルなどが木に引っかかるので、できるだけザックは小さめにして、物を外付けせずザック内に収納した方がよいと思う。
- ・懸垂下降支点はしっかりしており 50mロープ 2 本を使用した。
- ・しっかりした岩場もあるが、全体的に脆い箇所が多いと感じた。



Ⅱ峰懸垂下降支点はこんな感じです。



懸垂下降してる I さん



こんな岩場がひたすら続きます



ギザギザ八ツ峰の雪渓。雄大でとても奇麗でした。やっぱり剣岳はカッコいいね。



山頂にて3人で記念撮影♪ 無事到着して良かった(^^)/



本峰南壁を登攀してきたOさん、Kさん、Tさんと山頂で会えた!嬉しかった! 仲間やなぁ~。



全員集合。皆さん、ありがとうございました!